

英語で自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成する学習指導

～既習事項を活用し、即興で「やり取り」する言語活動を通して～

糸満市立潮平中学校教諭 新垣望

I テーマ設定の理由

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等によって、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えると予想されている。このような時代にあつて、学校教育には、子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決する力を育成することなどが求められている。特に、外国語によるコミュニケーション能力は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている（「中学校学習指導要領解説外国語編」p.1）。

平成29年告示中学校学習指導要領外国語（以下「学習指導要領」と表す）の目標では、「外国語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を（中略）育成することを目指す。」と示されている。生徒にとって英語によるコミュニケーション能力の向上は、単に外国の文化や考え方について受け身的に学ぶだけでなく、日本の文化や考え方を積極的に外国の人々に知らせることにもつながる。国籍や言葉の枠を越えた世界の人々との関わり合いを通して、相手に配慮しながら自分の考えや気持ちを伝え合う力がこれからの社会を生き抜くために必要な力になると考える。

しかし、事前の実態調査において、本校の第1学年の生徒88%が「英語は将来役に立つ」と感じており、「英語で外国の人と話したい」「外国の人に質問されたら英語で答えたい」と思っている生徒が84%いる一方で、全国学力・学習状況調査（平成31年度）の結果では「話すこと」において全国の平均点よりも-12.1ポイントと大きな差がある。

これまでの指導では、単語や文法、表現を定着させる目的でペアやグループ活動を行っていたため、生徒が英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことができていなかった。つまり、授業において身に付けた知識・技能を実生活におけるコミュニケーション能力につなげられず、自分が思っていることを英語で相手に伝える実践的コミュニケーション能力の育成は不十分であったと言える。

そこで、学習指導要領の「話すこと [やり取り]」の領域において、コミュニケーションの目的・場面、状況などに応じて、既習事項を活用し即興でやり取りする言語活動を行うことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることができ、英語で自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成できるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

英語学習において、目的や場面、状況などに応じて、既習事項を活用し即興でやり取りする言語活動を行うことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることができ、英語で自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成できるであろう。

2 検証計画

事前に行う英語の授業に関するアンケートやインタビューテストの結果等から、生徒の実態調査を行う。検証授業は、1年4組の学級で9時間程度行う。検証授業では、生徒の発言、ペアやグループ

活動の様子を写真やビデオ記録、ワークシートの記述、振り返り等により生徒が自分の考えや気持ちを表現することができたかどうかを考察する。単元終了後にアンケートやインタビューテストを実施し、事前調査との比較・分析を行い本研究の仮説を検証していく。

検証授業の対象：潮平中学校 1年4組 男子16名 女子15名 計31名		主な検証方法
1 事前調査	○英語に関する事前アンケート（12月） ○インタビューテスト（12月）	・事前アンケート ・インタビューテスト
2 検証授業	日程	検証の観点 ・既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしているか。 ・目的や場面、状況などに応じて自分の考えや気持ちを伝え合うことができたか。
	第1時(1/6) 第5時(1/16) 第2時(1/7) 第6時(1/20) 第3時(1/10) 第7時(1/22) 第4時(1/14) 第8時(1/23) ※本検証 第9時(1/24)	
3 事後調査	○事後アンケート（1月） ○インタビューテスト（1月）	・事後アンケートの分析 ・自己評価等の分析 ・授業記録、生徒の感想等の分析 ・インタビューテスト
4 まとめ	○既習事項を活用し、即興でやり取りをしようとしているか。 ○目的や場面、状況などに応じて自分の考えや気持ちを伝えることができたか。	・事前、事後アンケートの分析 ・結果の考察・まとめ

Ⅲ 研究内容

1 育成を目指す資質・能力

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説外国語編」（以下「解説外国語編」と表す）では、外国語における資質・能力を表1のとおり示している。

表1 中学校外国語科の目指す資質・能力（学習指導要領より）

知識及び技能	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

英語を実際に使用するには、見方・考え方を働かせ、目的や場面、状況などに応じて「話すこと」や「書くこと」を通して自分の考えや気持ちを相手に伝え合うことが重要である。また、英語による実際のコミュニケーションの場面では、情報や考えなどを話し手と聞き手が即座にやり取りすることが多く、英文を頭の中で組み立てる時間も少ないことから「即興性」を高めることが重要である（「解説外国語編」p.22）。

そこで、本研究では、生徒がこれまでに習得した既習事項をもとに即興でやり取りする活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることを目指す。また、生徒が新しい語彙や表現、言語の働きに気づくなど、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができるよう言語活動の工夫を図りたい。

2 即興でやり取りする言語活動の工夫

(1) 目的、場面、状況などの設定

「解説外国語編」によると、目的や場面、状況などの設定について、「コミュニケーションを行うことによって達成しようとする目的や、話し手や聞き手を含む発話の場面、コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境のことを指す。(中略)このように、『目的や場面、状況など』に応じた言語の運用を考えることで、『思考力、判断力、表現力等』が育成される。」とし、コミュニケーションを行う際にその設定が重要であると述べている (p. 14)。

そのため、授業においても他者とコミュニケーションを行うには、何の目的でコミュニケーションを行うのか、どのような状況で誰に対してか、相手の意図や自分の考えはどのように伝えていくのかを明確にする必要があり、実生活において意味のある言語活動でなければならないと考える。つまり、生徒が積極的に言語活動に取り組むためには「目的や場面、状況など」の設定が不可欠であり、コミュニケーションの目的を達成するために自分の考えや気持ちを伝え合うことが英語による表現力を高めると考える。

(2) 既習事項の活用

「解説外国語編」では、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動について、「小学校第3学年から第6学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。」と述べており、また「中学校第1学年においては、特に、小学校における外国語活動や外国語科の内容、指導等の実態や生徒の興味・関心等を十分に踏まえるとともに、生徒が在籍していた小学校において、どのような時間割編成、指導体制によって授業が行われているかを把握することにより、中学校への円滑な接続を図ることが必要である。」としている (p. 85)。

本研究では、小学校で経験し蓄積してきた語彙や表現、言語の働きといった内容に加え、その定着を図りながら積み重ねてきた中学校第1学年の前半までの内容を「既習事項」として捉え、授業のコミュニケーション活動において既習事項を繰り返し活用させたい。

また、小学校から継続してきた言語活動については、中学校でさらに継続して学習内容の定着を図りながら、実生活を想定したコミュニケーション活動を通してより言語の運用能力を高めることが必要であると考え。そのため、授業においてこれまで学んだ知識を様々な場面で活用できる技能として働かせるため、生徒が学習してきた内容を帯活動などで実際に活用させ、即興で話す活動において既習事項の活用を意識しながらコミュニケーション活動に取り組むことが重要である。

(3) 即興で「やり取り」すること

「学習指導要領」では、互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、「話すこと [やり取り]」の領域が新しく設定された。

表2 「話すこと [やり取り]」の目標 (学習指導要領より)

領域別の目標 話すこと [やり取り]		
ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。	イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

また、「解説外国語編」では、「やり取りを行う際は準備時間などを取ることなく、不適切な間を置かずに関わりと事実や意見、気持ちを伝え合うことが重要である。やり取りを行う際は、相手の発話に応じることが重要であり、それに関連した質問や意見を述べたりして、互いに協力して対話を継続・発展させなければならない。」と述べている (p. 22)。

さらに、和泉 (2015) は、やり取りについて「教師と生徒間だけでなく、生徒同士、またティームティーチングなどでは教師間で行われることも考えられる。その全てが、生徒にとっては貴重な

言語習得の場となる。(中略) 生徒の言語使用の機会を増やし、自己理解と他者理解の両方を深め、言語習得の動機付けを高める。」と述べている (p. 222)。つまり、自分の考えや気持ちを伝え合いながら会話を継続・発展させる言語活動を通して、即興でやり取りするコミュニケーション能力を高めることが英語を習得していくうえで重要である。

3 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

「解説外国語編」では、「英語の学習を通して、我が国の文化と、英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに、そうしたことに興味をもち、理解を深めようとする態度を育成することが大切である。」と述べている。また、このように多様な考え方に触れて理解を深めることで、生涯において公正な判断力や豊かな心情を育てることが必要だとしている (p. 99)。

授業では、単に英語の習得だけを目指すのではなく、生徒が多くの人達との関わりを通して広い視野から国際理解を深め、興味・関心をもって言語活動に取り組むことが重要である。その言語活動を通して、様々な国や地域の言語や文化的背景に興味・関心を示しながら、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成することが自分の考えや気持ちを伝え合う力を高めると考える。

また、大城 (2019) は、言語活動の定義について述べる中で「言葉の本来の役割は、『自分の考えや気持ち』を相互に伝え合うことである。外国語といえども言葉に変わりはないものである。したがって、『言語活動』の再定義は、言葉の本来の役割を授業においても体験させることを意味する。当然、『思考・判断・表現』すること、『知識・技能』を活用することが求められる。また、『自分の考えや気持ち』を伝え合うことによって『主体的に外国語を学ぼうとする態度』も育成される。」として、学習指導要領が求める資質・能力を総合的に育成する重要性を述べている。

IV 検証授業

1 単元名 Lesson 8 The Moon and the Stars (TOTAL ENGLISH 1)

2 単元の目標

- 現在進行形の表現、疑問詞 **which** を用いた文構造を理解し、活用している。 【知識・技能】
- 目的や場面、状況などに応じて互いの考えや気持ちを英語で伝え合っている。 【思考・判断・表現】
- 相手に配慮してコミュニケーションを図ろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、天体観測についての話題であり、ヒロとベンの電話での会話や文化によって異なる月の見方があることを知るといった内容である。電話で見えない相手との会話や自分の状況を説明する表現、文化によって異なる考え方があることを理解する機会としたい。

言語材料は、現在進行形 (be 動詞 ~ing) と疑問詞 **which** を取り扱う。実際のコミュニケーションにおいても現在形や過去形と同じく使用頻度の高い表現である。本単元では、現在進行形の表現や時制について理解し、適切な文脈や場面で使用できる力を伸ばしたい。生徒は入学してからこれまで現在形の表現を学習しており、自己紹介や相手に簡単な質問ができるようになっている。また、小学校から継続して疑問詞 (what, where, when, who, whose, how) を学習してきているため、**which** の意味や用法を習得するだけでなく、その他の疑問詞の意味や用法とも結びつけて理解することが大切である。

本単元では、現在形から現在進行形といった時制の変化に気づくことができ、時制による語形の変化や用法を学ぶことが次の単元で扱う過去形につながっていく。そのため、現在進行形は「動作の進行」を表すもので、現在形との違いを意識して「今~している」、「~しているところ」という動作の進行を表す意味や用法を指導することを目標とする。

(2) 生徒観

事前に行ったアンケートの結果から、「英語の勉強は好き」、「どちらかといえば好き」と答えた生徒は74%いる。「英語を話せるようになりたい」、「英語で外国の人と会話したい」という生徒が84%おり、「英語は将来役に立つと思う」と答えた生徒も88%いることから、英語に対する関心が高く、必要性を感じていることが分かった。しかし、英語で話すことは「あまり好きではない」、「好きではない」と答えた生徒は46%おり、英語で前もって準備することなく話すことは「あまり得意ではない」、「得意ではない」と答えた生徒は64%いた。このことから、英語が好きで必要性を感じているものの、「英語で話すこと」については苦手意識がある生徒が多いと言える。その理由として、「単語が出てこない」「話すことが難しい、苦手」「何と言えればいいか分からなくなる」など、英語で話すことの経験や表現する場面が足りないこともあげられる。また、小学校から慣れ親しんできた語彙や表現を会話の中でうまく活用できていない現状もある。そのため、授業では目的や場面を設定して即興でやり取りする機会を多く取り入れることで、これまで学んできた内容を実際のコミュニケーションの場面で活用して表現する力を高めていきたい。

(3) 指導観

本単元では、「話すこと [やり取り]」の領域において、生徒が自分の考えや気持ちを伝え合う力を育みたい。学習到達目標を「**Topic** について、今までに習った表現を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことができる」と設定し、身に付けたい力を明確にして授業を進めていく。

そこで、生徒が積極的に自分の考えや気持ちを伝え合うことができるよう、授業ではコミュニケーションの「目的や場面、状況など」を明確にし、既習事項を活用したペアやグループでの「やり取り」の場を設定する。単元全体を通して、①導入時に行う帯活動の **Small Talk** において、本時の内容につながる既習事項や会話に役立つ表現を掘り起こす。②「目的や場面、状況など」を明確にし、教師のモデル対話の中で本時の **Target Sentence** を提示し、新出文法を導入する。③本時のメインの活動では、「目的や場面、状況など」に応じて、即興で自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行う。

生徒の実態として、英語に対する興味・関心はあるが、「話すこと」に対する苦手意識と実際のコミュニケーションの場で活用する経験が少ないことから積極性に欠ける面がある。本単元全体を通して、生徒が既習事項を活用して積極的に言語活動に取り組めるよう「やり取り」の場を増やし、目的や場面、状況に応じて即興で自分の考えや気持ちを表現し伝え合えることを目指したい。

4 評価規準

話すこと [やり取り]			評価
ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度	
〈知識〉現在進行形や疑問詞 which を用いた文構造を理解している。 〈技能〉 Topic について、現在進行形や疑問詞 which を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合う技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、 Topic について自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、簡単な語句や文を用いて主体的に伝え合おうとしている。	ア 定期テスト イ インタビューテスト ウ 観察・記録

5 指導と評価の計画 (全9時間)

時	■めあて ○生徒の活動 (言語活動、学習内容等) ※丸数字	話すこと [やり取り]			◆検証の視点【方法】 (◎評定、○指導) □評価規準 (方法)
		知	思	態	
1	■単元で身につける技能や目標を知る。 Topic について、今までに習った表現を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことができる ①授業の流れと評価方法を確認する。 (Small Talk、即興のやり取り、既習事項の活用、評価等の確認)				

2	<p>■現在進行形の文構造を理解する。</p> <p>①帯活動 1 Small Talk Topic「When is your birthday?」(We can!-1) 目的や場面、状況</p> <p>②友人に買い物に誘われた時に、電話で自分の状況を説明する。 ・会話の中の Target sentence に気づき、意味を推測する。 ・現在進行形の表現を用いて、口頭練習をする。</p> <p>③ペアで「電話の会話」のやり取りを行う。</p> <p>④やり取りの内容を書く。 ⑤自己評価シートの記入</p>			○	○	<p>◆既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしている。 【観察・記録】</p> <p>◆目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを伝えている。</p>		
3	<p>■本文 Part A の内容を理解する。</p> <p>①帯活動 2 Small Talk Topic「What time do you get up?」(We can!-1)</p> <p>②本文の内容について確認する。</p> <p>③音読、内容に関する Q&A を行う。 ④自己評価シートの記入</p>		◎		○	<p>◆既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしている。 ○【観察・記録】</p> <p>知識・技能 ◎後日定期テスト</p>		
4	<p>■現在進行形の疑問文と答え方の文構造を理解する。</p> <p>①帯活動 3 Small Talk Topic「Where do you want to go?」(We can!-1) 目的や場面、状況</p> <p>②道端で困っている外国人を助けてあげよう。 ・会話の中の Target sentence に気づき、意味を推測する。 ・現在進行形の疑問文の表現を用いて、口頭練習をする。</p> <p>③ペアで「困っている外国人を助ける」やり取りを行う。</p> <p>④やり取りの内容を書く。 ⑤自己評価シートの記入</p>				○	○	<p>◆既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしている。 ○【観察・記録】</p> <p>◆目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを伝えている。</p>	
5	<p>■本文 Part B の内容を理解する。</p> <p>①帯活動 4 Small Talk Topic「Who is your hero?」(We can!-1)</p> <p>②本文の内容について確認する。</p> <p>③音読、内容に関する Q&A を行う。 ④自己評価シートの記入</p>		◎			○	<p>◆既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしている。 ○【観察・記録】</p> <p>知識・技能 ◎後日定期テスト</p>	
6	<p>■疑問詞 which で始まる疑問文の文構造を理解する。</p> <p>①帯活動 5 Small Talk Topic「What do you want to watch in the Olympics?」(We can!-2) 目的や場面、状況</p> <p>②ALT のいとこの Hiwot さんに沖縄のおすすめの食べ物を紹介する。 ・会話の中の Target sentence に気づき、意味を推測する。 ・疑問詞 Which の表現を用いて、口頭練習をする。</p> <p>③ペアで「おすすめ食べ物を紹介する」やり取りを行う。</p> <p>④やり取りの内容を書く。 ⑤自己評価シートの記入</p>					○	○	<p>◆既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしている。 ○【観察・記録】</p> <p>◆目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを伝えている。</p>
7	<p>■本文 Part C の内容を理解する。</p> <p>①帯活動 6 Small Talk Topic「What do you want to be in the future?」(We can!-2)</p> <p>②本文の内容について確認する。</p> <p>③音読、内容に関する Q&A を行う。 ④自己評価シートの記入</p>		◎				○	<p>◆既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしている。 ○【観察・記録】</p> <p>知識・技能 ◎後日定期テスト</p>
8	<p>■Topic (沖縄に来た留学生におすすめの場所を紹介しよう) について、今までに習った表現を使って自分の考えや気持ちを伝え合うことができる。</p> <p>①帯活動 7 Small Talk Topic「What did you do last night?」 目的や場面、状況</p> <p>②ペアで Topic についてのやり取りを行う。 ・別のペアを作り、やり取りを繰り返す。</p> <p>③やり取りの内容を書く。 ④自己評価シートの記入</p>					○	○	<p>◆既習事項を活用し、即興でやり取りしようとしている。 ○【観察・記録】</p> <p>◆目的や場面、状況に応じて自分の考えや気持ちを伝えている。</p>
9	<p>○事後アンケート</p> <p>○インタビューテスト (評価: イ 思考・判断・表現) ・一人ひとりの生徒にインタビューテストを行う。 ・目的や場面、状況などに応じて互いの考えや気持ちを英語で伝え合っている。</p>					◎	○	<p>思考・判断・表現 ◎インタビューテスト (やり取り)</p>

※検証の視点【観察・記録】については、指導の改善や生徒の学習改善に生かすものとする。

6 第6時の指導（第6時／全9時間）

予定されていた本検証（第4時）では、現在進行形の疑問文を **Target sentence** にして授業を進めていったが、「目的や場面、状況など」の設定に課題が残った。「目的や場面、状況など」を明確にするためには、生徒にとって身近な話題からより具体的にイメージしやすい人や物、場所などの画像や動画の活用が必要であった。この課題をふまえ、展開時の活動をスムーズに行うために授業改善を行った結果、本報告書では第6時の指導案を提示する。

(1) **本時の目標** メラク先生のいここ (Hiwot) に沖縄のおすすめの食べ物を紹介しよう。

(2) **本時の展開**

	学習活動（内容・発問）	指導上の留意点	検証の視点
導入 10分	<p>1 Greeting</p> <p>2 帯活動 Small Talk</p> <p>「What do you want to watch in the Olympics?」</p> <p>※1 min×2回（横ペア、縦ペア）</p> <p>※会話表現を活用し、やり取りを継続する。</p> <p>※小学校外国語の教材「We can! 2」を活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教材を提示し、今までに習った内容を振り返る。 ・あいづち表現を黒板に掲示し、対話の継続に役立てる。 ・Small Talk は生徒とやり取りしながらモデルを示し、生徒同士のやり取りにつなげる。【観察・記録】 	<p>視点1</p> <p>既習事項を活用し、即興でやり取りをしようとしているか。</p>
展開 30分	<p>3 目的や場面、状況を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>メラク先生のいここ (Hiwot) に沖縄を楽しんでもらうために、おすすめの食べ物を紹介して沖縄を案内しよう。</p> </div> <p>4 Teacher's Talk を聞いて疑問詞 which の文構造を理解し、活用する技能を身につける。</p> <p>H: Hi, I'm Hiwot. Nice to meet you.</p> <p>S: Hi, Hiwot. Nice to meet you.</p> <p>H: Okinawa is very nice. I love Okinawa.</p> <p>S: Thank you. Which do you like, Okinawan soba or Taco rice?</p> <p>H: I like Taco rice. But what is Okinawan soba?</p> <p>S: Okinawan soba is ... It's very delicious.</p> <p>5 教師によるモデル提示をする。</p> <p>※基本となる型を確認し、モデルを示す。</p> <p>6 即興での「やり取り」を行う。※ペア 1min</p> <p>※既習事項やあいづち表現も活用する。</p> <p>7 ペアを替えて、再度「やり取り」を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT のいこの話題から、沖縄に来る予定であると伝える。 ・実際に会う時には、生徒がどのようなことを伝えたいか確認する。 ・Teacher's Talk からどのような質問の仕方をしているかを捉えさせる。 ・会話はゆっくりと行い、疑問詞 Which の部分は特に強調する。 ・疑問詞 Which の文構造を板書にて確認する。ノートの記入はさせず、口頭での練習を行う。 ・実際に話す場面を想定し、やり取りを行う。 ・今までに習った表現や疑問詞を使い、会話を続けるよう促す。 ・机間指導をしながら、自分の考えや気持ちを入れて対話を継続するよう意識させる。【観察・記録】 	  <p>視点2</p> <p>目的や場面、状況などに応じて、英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことができたか。</p>
まとめ 10分	<p>8 本時のまとめ</p> <p>※やり取りで表現した内容をノートに書く。</p> <p>※疑問詞 which を使った文を中心に書く。</p> <p>9 振り返り・自己評価シートの記入</p> <p>※気づいたこと、感想などを記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを回収し、生徒が書いた内容を確認する。 ・本時を振り返り、めあてを達成できたか自己評価カードに記入する。 	

V 研究の結果と考察

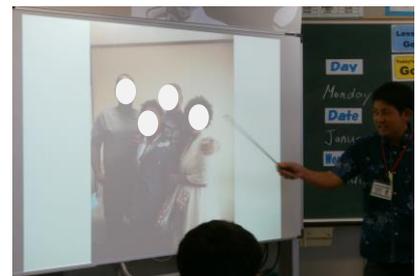
研究の考察は、事前・事後アンケートとインタビューテスト、自己評価シート、授業観察（写真やビデオ記録を活用）をもとに行った。

1 即興でやり取りする言語活動の実際

(1) 「目的や場面、状況など」を明確にした言語活動

展開時の Target sentence の導入では、目的や場面、状況などを設定したうえでどのような会話が行われているかを捉える意味内容を重視する活動から行った。その後、本時の Target sentence の形式を確認し、即興でのやり取りで活用していく流れである。

第6時の授業では、ALT の先生のいとこの写真（資料1）を提示し、沖縄を訪れる予定があることを伝えた。学校を訪問する時には、沖縄のどんな食べ物や場所をおすすめしたいかを生徒に考えさせ、自分の考えや気持ちを入れて表現するよう即興のやり取りにつなげた。生徒にとって身近な話題にすることや伝える内容を生徒の実態に合わせて絞ることで、即興でやり取りする活動ではより積極的にコミュニケーションを図ろうとする様子も見られた。目的や場面、状況などを明確に設定することで、生徒が伝えたい内容をより具体的にイメージでき、英語で表現する言語活動が充実したと考える。



資料1 授業の様子

(2) 既習事項を活用した帯活動

毎時間の導入時に、既習事項を活用した帯活動として小学校の教科書「We can!」（資料2）を活用して Small Talk（資料3）を行った。1分間のやり取りをペア（横・縦）で2回行い、既習事項の活用と定着、即興でのやり取りに慣れるような取り組みを図った。

はじめに、We can!の表現（Where do you want to go? What do you want to watch in the Olympics?等）を実際の教科書を見ながら確認し、教師による Small Talk を行った。次に、教師と生徒でやり取りをしながら、どのように会話を継続していくかを全体で確認した。その後、生徒同士のペアで Topic についてのやり取りを1分間行った。1回目のやり取りで表現できなかったことや会話が續かない理由などを生徒の意見から集め、改善を図ったうえで2回目のやり取りを行った。



資料2 We can!の活用

生徒は、今までに習った表現を実際の会話の場面で使うことに慣れていないことから、Small Talk では特に Target sentence を強調して活動を進めた。既習事項を意識してやり取りを進めるにつれて「この表現はやったことがある。」「思い出した。」という生徒の声が聞かれ、既習事項を活用した即興でのやり取りに具体的に取り組むことができたと考える。

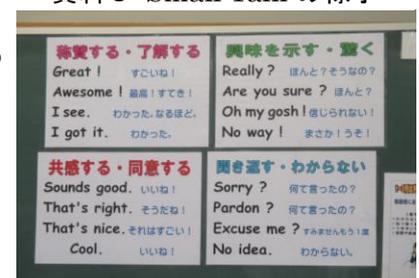


資料3 Small Talk の様子

(3) 即興でのやり取りを継続する取り組み

会話を継続するヒントとして、How about you? や Why?、Target sentence を使って相手に質問を返すこと、ジェスチャーの使用、あいづち表現（資料4）を活用することなどを促すことで即興でのやり取りを継続する工夫を図った。

単元の前半では、生徒は既習事項を使って表現することを意識せず、即興でのやり取りも続かない様子が見られた。しかし、単元の後半に近づくにつれ Topic についての相手への質問の仕方やあいづちのタイミングなどにジェスチャーを使うなどして即興で



資料4 あいづち表現

のやり取りを楽しむ様子が見られた。今までに習った表現を使って即興でやり取りすることに加え、相手意識をもって話すために発話に応じた表現の活用も即興性を高めるために有効だったと考える。

(4) 自分の考えや気持ちを伝え合うこと

自分の考えや気持ちを即興のやり取りの中で伝えるためには、目的や場面、状況などの設定だけではなく、実際のやり取りでどう表現していくかが大切であった。生徒の実態から、はじめはモデル対話(資料5)をすべて提示し、慣れてきたところで少しずつ対話の提示を減らしていった。最終的に、ほとんどモデル対話を提示せず、自分の考えや気持ちを含めて表現するような工夫を図った。モデル対話をどのタイミングで外していくかも重要であり、生徒の実態に応じて見極めることも必要だと理解した。また、基本的な対話を身につけて自由度をあげた即興でのやり取りを行うことで、単の後半では「Oh, really? Taco rice is very delicious! But I don't like taco rice because ...」など自分の考えや気持ちを伝える生徒も増えてきた。考えや気持ちをどう表現したらよいかわからない生徒にはモデル対話の提示が有効であり、さらに自由度をあげて表現を広げたい生徒はコミュニケーションを楽しむ様子が見られ、段階的な指導を考慮してやり取りする活動を継続することの重要性を認識できた。



資料5 モデル対話の例

2 研究仮説の検証

(1) アンケートの分析

① 目的や場面、状況などの設定

図1のアンケート結果から、「目的や場面、状況などを意識してやり取りをしていますか。」について、「そう思う」、「どちらかといえば思う」という生徒が84%となった。「場面に応じて英語を使い分けることができるようになった。」「目的が分かったら意識して話すことができる。」「状況を意識しながらやると話が続くので良い。」などの意見があった。目的や場面、状況などをより明確にして言語活動を設定することで、生徒は英語で何のためにどう話したらよいかを理解し、状況に応じて伝える内容を工夫していることが分かった。生徒にとってより身近な話題で、具体的な場面設定をもとにした言語活動が、やり取りを行うには欠かせない要素であり、授業を進める上でも効果的であると見える。

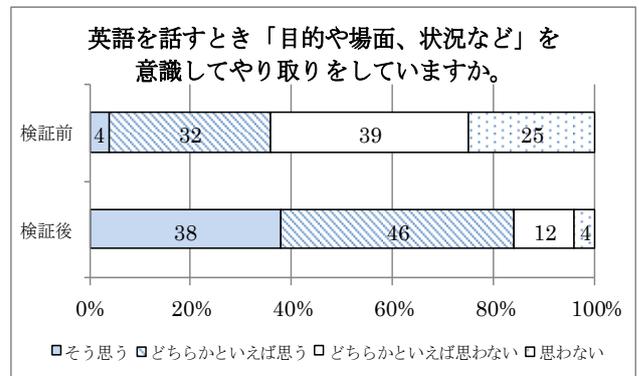


図1 「話すこと」に関するアンケート①

② 既習事項の活用について

図2のアンケート結果から、「今までに習った表現をうまく使って会話が続くようにしていますか」という質問に「そう思う」、「どちらかといえば思う」と答えた生徒が100%となった。検証前よりも、既習事項を意識しながら英語でのやり取りを行うようになったことが分かる。その理由として、「小学校の英語のふり返りができてよかった。」「今まで習った内容を使って話すことを意識しながらやり取りができた。」などがある。既習事項を意識した活動を行うことで、生徒は今ま

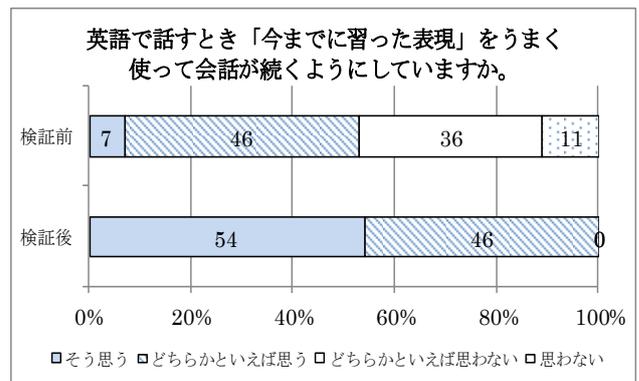


図2 「話すこと」に関するアンケート②

でに習った表現を使ってやり取りができることを実感し、自信をもって英語を話すことができた
と考える。また、既習事項を繰り返し使用することで、発話の量も次第に増えていったことから
既習事項を活用した活動は基本事項の定着にも有効だったと言える。

③ 即興でのやり取りについて

即興でのやり取りを行う中で、はじめは「会話が続かない」、「何と書いていか分からない」
という生徒の声が多かった。そこで、会話を継続するために相手に同じ質問をしたり、あいづち
をうちながら相手の発話に反応するなど、実際に行われる会話の流れを確認しながら活動を行っ
た。また、やり取りの中では相手の質問に答えるだけでなく、「I like Okinawan soba. It's very nice.
」など自分の考えや気持ちを加えることでより相手に伝える内容を広げることが大切であると
し、自分の考えや気持ちを伝える表現もモデルを示しながら確認した。

図3のアンケート結果から、「英語を話すとき即興でやり取りすることはできますか。」の
質問に対し、「そう思わない」と答えた生徒が検証の前後で20ポイント減っていることが分
かる。また、「そう思う」、「どちらかといえば思う」と答えた生徒が合わせて50%となり、
即興でやり取りができると感じている生徒が18ポイント増えている。生徒の感想から「言
葉につまるけど単語を使って少しはできる。」
などがあり、間違えても何とか伝えようとい
いづちやジェスチャーを交えながら、即興で
のやり取りを継続する様子が見られた。

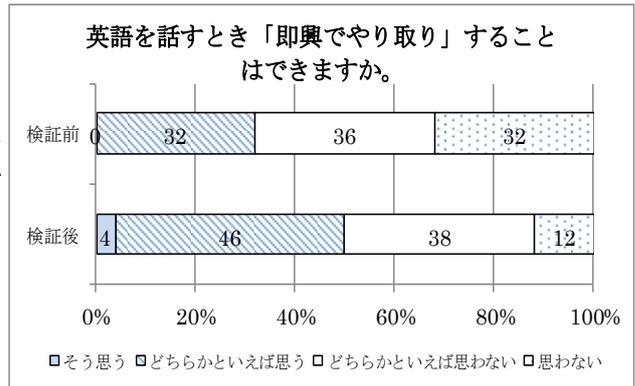


図3 「話すこと」に関するアンケート③

④ 自分の考えや気持ちを伝え合うこと

図4のアンケート結果から、英語で自分の
考えや気持ちを表現できるかについて「そう
思う」、「どちらかといえば思う」と答えた生
徒が77%に増えた。その理由は、「自分の気
持ちは少しずつ表現できるようになった。」「
単語でも伝えられるから」、「気持ちを伝え
たほうが話しやすい」、「自分のことを英語で
言えるから」などがあつた。また、「どちらか
といえば思わない」、「思わない」と答えた生
徒が、検証後には42ポイント減っている。モ
デル対話をもとにやり取りの基本を学び、そ
のモデルを応用して自分なりの考えや気持ち
を入れて表現することに対して少しずつ自信
が表れてきていると考えることができる。

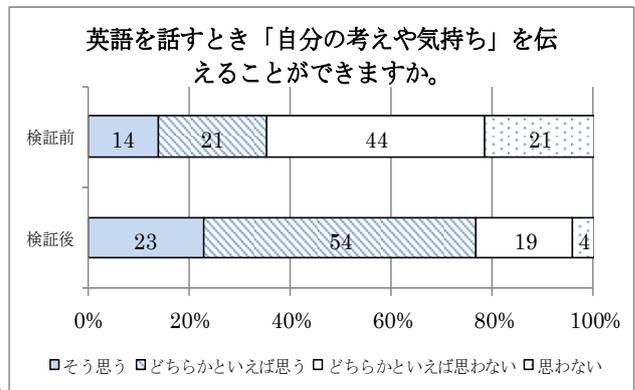


図4 「話すこと」に関するアンケート④

また、図5の自分の考えや気持ちを伝えたい
と思うかの質問に対し、89%の生徒が前向
きに捉えている。英語で伝え合う活動は、表
現力を高めるだけでなく、英語で表現した
いと思う関心や意欲を高めることにもつな
がったと考える。実際の授業では、表現し
たい内容を辞書で調べるなどして主体的に
取り組む様子も多く見られるようになった。

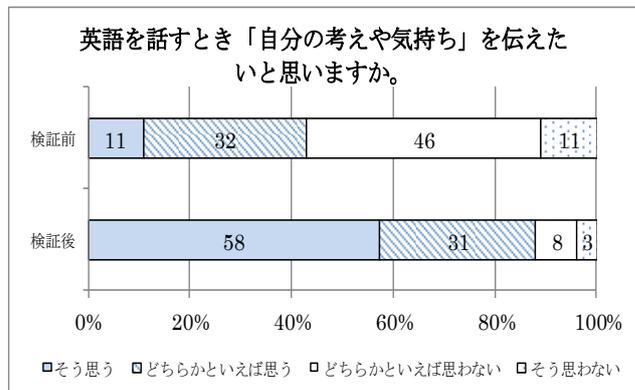


図5 「話すこと」に関するアンケート⑤

(2) インタビューテスト（やり取り）の結果

インタビューテスト（やり取り）は、「目的や場面、状況など」を提示して検証前と検証後に一人1分で実施し、ビデオ記録をもとに評価を行った。評価規準は、表3に示したように「学習指導要領」の資質・能力の観点から設定し、評価基準は一つの観点に対して6点満点（Aが5点以上、Bが3～4点、Cが1～2点）として、重みづけはせず合計18点で評定した。

表3 インタビューテスト（やり取り）の評価規準

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	6 既習事項などを適切に使って、誤りのない正しい英文で話すことができる。	Topic について、①相手の質問に答えながら、自分の考えや気持ちを入れて②相手に質問したり、話題を広げたり深めたりして対話を継続している。	Topic について、①相手の質問に答えながら、自分の考えや気持ちを入れて②相手に質問したり、話題を広げたり深めたりして対話を継続しようとしている。
	5 誤りのない正しい英文で話すことができる。	①相手の質問に答えながら、②質問したり、話題を広げたり深めたりして対話を継続している。	①相手の質問に答えながら、②質問したり、話題を広げたり深めたりして対話を継続しようとしている。
B	4 誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	①相手の質問に答えたり、②質問したりして対話を継続している。	①相手の質問に答えたり、②質問したりして対話を継続しようとしている。
	3 誤りがあるが、ある程度の英文を用いて話すことができる。	①相手の質問に答えて、自分のことを伝えている。	①相手の質問に答えて、自分のことを伝えようとしている。
C	2 ある程度の単語を用いて話すことができる。	相手の質問に単語や Yes / No で答えている。	相手の質問に単語や Yes / No で答えようとしている。
	1 満たしていない	満たしていない	満たしていない
Total			/ 18

検証前の平均得点が7.3ポイントだったのに対し、検証後の平均得点は13.0ポイントとなった。検証後のインタビューテストでは、あいつちの表現やジェスチャーを交えるなど検証授業を通して即興でのやり取りに慣れてきている様子もあった。

図6は、インタビューテストの結果である。

「知識・技能」の項目も伸びているが、特に「思考力・判断力・表現力」の項目で32ポイントの伸びがあった。また、「主体的に学習に取り組む態度」について37ポイントと大きな伸びが見られた。このことから、検証授業を通して、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成するための言語活動の工夫は、「思考力・判断力・表現力」を高めることにも効果があり、それと同時に「主体的に学習に取り組む態度」も育成することができたと考える。

また、図7に示すように、即興での「やり取り」をやってみて英語でのコミュニケーション能力は高まったと思う生徒が93%いた。表現や文法的な間違いを恐れず英語でより積極的にやり取りしようとする意識が高まったと考える。

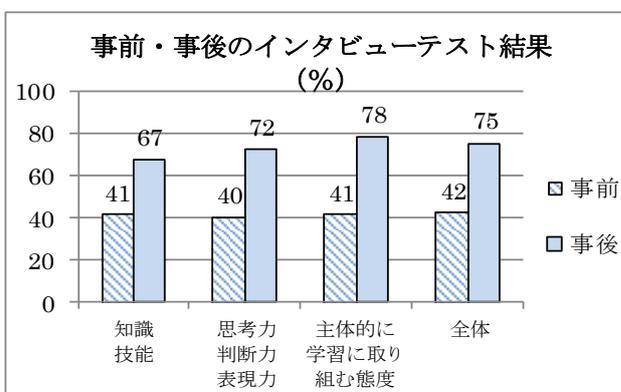


図6 インタビューテストの結果

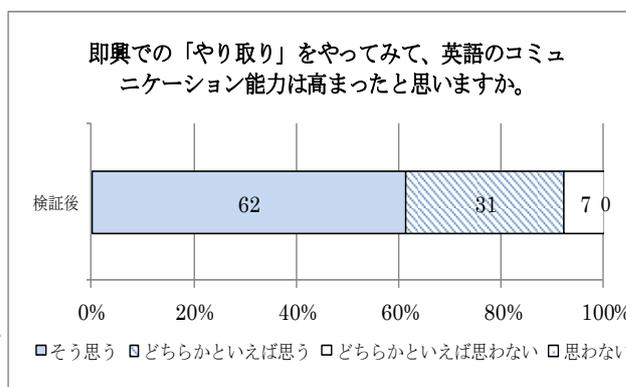
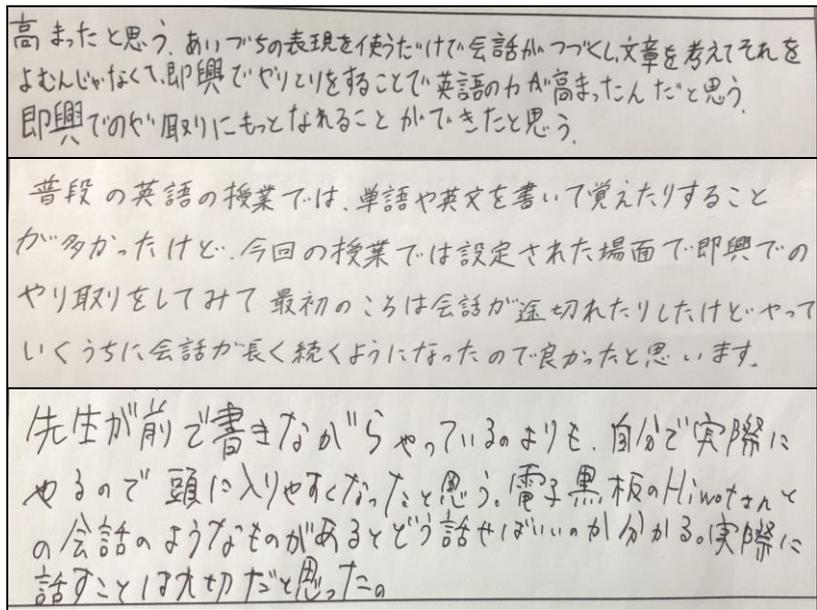


図7 「話すこと」に関するアンケート⑥

(3) 生徒の感想

資料6は生徒の感想である。話すこと〔やり取り〕を通して、最初に文章を考えるのではなく、実際の会話の中で体験することで新しい表現に気づき、その表現を習得することに充実感を得ている様子が見られる。単語や英文を書いて覚えることよりも即興でのやり取りの中で自分の考えや気持ちを伝え合うことで学習していくことにより効果があったと言える。

言語活動の工夫改善を図り、即興でのやり取りを継続することで自分の考えや気持ちを伝え合う力を高める指導が効果的であると考えられる。



資料6 生徒の感想（単元終了後）

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 即興での「やり取り」を継続することで自分の考えや気持ちを伝え合う力を高めることができた。
- (2) 目的や場面、状況などの設定を明確にすることにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることができた。
- (3) 「やり取り」の言語活動を工夫することにより、生徒が「やり取り」の中で新しい表現や文法を捉え活用することができた。

2 今後の課題

- (1) 生徒へのモデル提示と自由度をあげた言語活動のバランスを生徒の実態から見極め、指導に生かしていく必要がある。
- (2) Topic をもとに、既習の基本事項や様々な文型を生徒から引き出し活用していく指導方法の工夫改善を図る必要がある。
- (3) 「やり取り」を重視した授業展開と言語活動の工夫を図り、より対話的で深い学びにつながる授業づくりに努める必要がある。

〈主な参考文献〉

文部科学省 大城賢	『中学校学習指導要領解説』 外国語編 「新学習指導要領を踏まえた授業づくり」島尻教育研究所主催 英語教員研修会配布資料	2017年 2019年
村野井仁 著	『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』 大修館書店	2017年
和泉伸一 著	『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』 大修館書店	2015年